



NTTグループの 社会的な環境問題への取り組み

私たちは、社会の中で企業活動を行っています。それはつまり、自然生態系(エコシステム)の中で活動しているということです。したがって、私たちの活動は、社会や人間やその他すべての生き物と深く関わっており、人と社会への貢献のうえに価値を生み出すものでなければなりません。ここでは、事業活動以外に、会社や従業員が、地域社会でも積極的に環境活動を行うように取り組んできた実績をご報告します。

グループ社員の社会的貢献活動 34

「イーハトーブ・エコロジー・コミュニティ・プラザ」

NTT東日本岩手支店

「市民参加型環境情報ネットワーク」共同プロジェクト

NTT西日本滋賀支店

わがまち・わがみち事業

NTT-ME北陸富山支店

天然ガス自動車の導入

NTT西日本金沢支店・NTT-ME北陸石川支店・NTT-ME関西

「ドコモの森」づくり

社員教育・受賞 36

社員の教育・啓発プログラム

社員の意識調査

社外との協力体制

環境に関する受賞

情報の提供・コミュニケーション 38

環境広告

環境goo

環境ホームページ

環境報告書の発行

社会との関係 40

従業員との関係

お客さまからのご意見

■ グループ社員の社会的貢献活動

<http://www.ntt.co.jp/kankyo/2001report/3/311.html>

NTTグループが推進する、「環境保全における地域社会への積極的貢献」。これは、豊かな生活・文化の創造に貢献していこうというエコロジー・プログラムの一環です。この理念に基づいた活動が、NTTの各支店や営業所で活発に行われています。

「イーハトーブ・エコロジー・コミュニティ・プラザ」

NTT東日本岩手支店

「イーハトーブ*・エコロジー・コミュニティ・プラザ」では、地域に根差した環境教育活動・情報発信・交流の場の提供など、さまざまなかたちで環境保護活動を支援しています(表1)。

主な支援活動内容

1. ワークスペースの提供

環境保全活動を行う団体や「こどもエコクラブ」「森林愛護少年団」など子供たちのクラブに「プラザ」を提供。ここでは、活動の打ち合わせの場を提供するだけでなく、設置してあるパソコンを利用したり、テレビ会議を行うこともできます。

2. 環境教育プログラム実施・運営の支援

環境教育を実施する団体が行う、プログラムの実施・運営を通信設備等の側面から支援しています。

3. 環境情報のデータベース化・情報収集・発信支援

岩手県内の環境情報をデータベース化。今後は、環境教育に取り組む団体等へ発信していきます。また、環境への関心を広めるためのインターネット教室や、ホームページ作成教室も開催中です。

4. ヒューマンエコロジー・ネットワークの構築

「同プラザ」が中核になり、各団体相互の交流を支援します。その中で、環境活動のコーディネーターの育成も行い、より活発な活動を可能にするネットワークづくりを推進します。

これからの岩手支店の目標

さまざまな支援を実施している岩手支店ですが、これまでのネットワークをさらに広げていこうと考えています。地域貢献・環境保全に積極的な企業を募り、地域の市民団体や環境保全活動を行う団体、子供たちへの環境教育などをよりいっそう支援していきます。

岩手エコプラザホームページ

<http://eco.iwate.isp.ntt-east.co.jp/>

青森支店エコプラザホームページ

<http://www.ntt-east.co.jp/aomori/e3aomori/eco-plaza/index.html>

「市民参加型環境情報ネットワーク」共同プロジェクト

NTT西日本滋賀支店

「未来に残そう、美しい琵琶湖」を合言葉に、地域密着型の環境保護活動を行っています。その一環として、エコロジー・コミュニティ・プラザ(バーチャル)を活動拠点としながら、ホームページで支店の環境保護活動の状況を発信しています。また、「(財)淡海文化振興財団 淡海ネットワークセンター」と連携し、各種研修会、セミナーを開催。通信回線、端末機器等ツールの相談にも応じています。

滋賀県との共同プロジェクト

滋賀県とNTT生活環境研究所では、「市民参加型環境情報ネットワーク」構築のための共同プロジェクトを立ち上げました。これまでに赤野井湾*流域での環境調査や滋賀県と岩手県の小学校間の交流、世界湖沼会議に向けたボランティアコーディネーションシステムをつくるための取り組みなどを行いました。これからも、地域住民の方たちとともに環境問題を考えながら活動・支援を行っていきます(表2、図1)。

*イーハトーブ

「イーハトーブ」とは、宮沢賢治が故郷「岩手」をエスペラント語風にネーミングしたものの

* 赤野井湾

琵琶湖の南湖東岸にある湾。守山市の琵琶湖大橋の東から烏丸半島の北あたりに形成されている入り江の浅瀬が、通称「赤野井湾」と呼ばれている

表1 これまでのおもな活動内容

実施項目	実施内容
桜開花一斉調査 (2000年4月～5月)	「みんなで作る! ふるさと桜前線」と題し、岩手県内の小中学校、養護学校、盲学校104校参加のもと、各学校にある桜の開花状況をWebで公開
エコプラザオープン セレモニー (2000年5月)	子供たちの遠隔交流会を中心にエコプラザのオープンセレモニーを実施。盛岡、一関双方のエコプラザ間で、TV会議により子供たちの活動を発表(盛岡、一関)
見守りカメラ (2000年5月～7月)	ウミネコをテーマにひなの誕生から巣立ちまでの様子を遠隔カメラでライブ中継。養護学校など、現場に行くことができない子供に環境教育の場を提供(宮古)
ホームページ作成講座 (2000年6月)	「こどもエコクラブ」を対象に、ホームページ作成の講座を実施(一関)
北東北子ども環境サミット (2000年9月)	北3県の子供約340人を対象に、体験したことをまとめるホームページ作成講座を実施。そのほか、子供エコ記者などを実施(安比)
水生生物調査支援 (2000年9月)	「こどもエコクラブ」を対象に、PC顕微鏡による水生生物調査を実施(大東町、三陸町)
環境シニアフォーラム (2000年11月)	県主催のシニアフォーラムにおいて、インターネットによる環境教育コーナーを実施・運営



わがまち・わがみち事業

NTT-ME北陸富山支店

同支店は、富山県の道路愛護ボランティア制度「わがまち・わがみち事業」にボランティア団体として登録認証されました。これは、NTT-ME北陸の環境保護推進活動の中の「地域環境保全活動への参画」の一環として始まったもので、富山支店の社員が事務所周辺の道路清掃を毎月定期的に行っているものです(写真1)。

写真1 事務所周辺を清掃する社員たち



天然ガス自動車の導入

NTT西日本金沢支店・NTT-ME北陸石川支店・NTT-ME関西

2001年3月、金沢市企業局が天然ガス自動車*に燃料を充填できる「エコステーション」を開設。これに合わせ、NTT西日本金沢支店が7台、NTT-ME北陸石川支店も3台の天然ガス自動車を導入しました。また、NTT-ME関西でも2001年2月から、天然ガス車を導入しました。これまでも低燃費車両を利用するなど積極的に地球温暖化防止対策に取り組んできましたが、今回の天然ガス自動車の導入により、さらに地球環境の保全に向けて努力していくこととなります(写真2)。

「ドコモの森」づくり

1999年よりNTTドコモグループが推進している

写真2 NTT-ME関西に導入された天然ガス自動車



「ドコモの森」づくり。これは、森林保護のための活動をグループ社員有志によって行っているものです。活動は、これまで全国で4回行われ、地元の森林インストラクターやボランティアから講義を受けながら楽しく意義のある1日を過ごしました(表3)。2001年秋には石川県で実施を予定しています。

表2 これまでのおもな活動内容

実施項目	実施内容
小学校ウォークラリー (2000年7月)	「びわこの日」に子供たちが行う水質のデータ収集にスタッフとして参画
NPO環境(水質)調査 (2000年8月)	電子野帳*を活用して水質のデータを収集、調査後のレビューで電子野帳の改良・改善点の検討に参画
東南アジア研修生 水質調査(2000年11月)	フィールドワークの研修生を支援
環境フェスティバル (2000年11月)	ホタル、メダカ等身近な生き物の中から10種類を選び、参加者のマーキングと同時に集計する「生き物マップ」づくりを支援
「こどもエコクラブ」 全国フェスティバル (2001年3月)	全国のこどもエコクラブを対象に、デジタルカメラを貸し出し、会場周辺の環境探検を実施。活動報告を子供たちがHP形式で作成

*天然ガス自動車

天然ガスを燃料とする自動車で、光化学スモッグ・酸性雨などの環境汚染の原因となるNOx(窒素酸化物)・HC(炭化水素)・CO(一酸化炭素)などの排出量が、従来車に比べて大幅に少ない

*電子野帳

14ページ参照

図1 「滋賀支店エコロジー・コミュニティ・プラザ」について

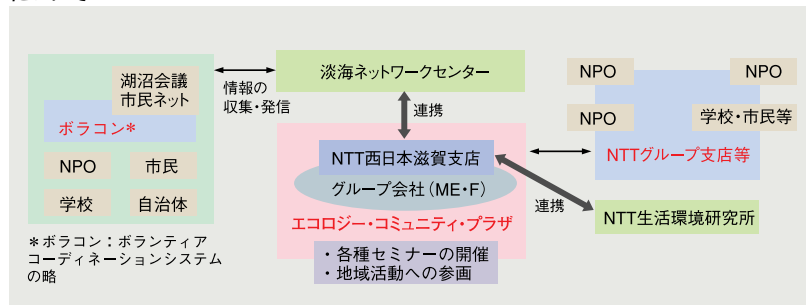


表3 「ドコモの森」づくり実施内容

第3回	日時	2000年6月2日(金)
	場所	北海道苫小牧市白老町樽前(たるまえ)国有林
	面積	5ha
	植樹種	アカエゾマツ・コブシ・カツラ・エゾヤマザクラ合計2,760本
	植樹実施者	NTTドコモおよびNTTドコモ北海道社員約60名
第4回	日時	2001年3月10日(土)
	場所	香川県綾歌郡綾上町櫻原(かしはら)国有林
	面積	3.12ha
	植樹種	マツなど(侵入したタケの除伐・ヒノキの枝打ちなど森林整備が主活動)
	植樹実施者	NTTドコモおよびNTTドコモ中国社員約90名

社員教育・受賞

<http://www.ntt.co.jp/kankyo/2001report/3/321.html>

NTTグループでは、さまざまな立場の社員たちが環境保護活動へ関心をもち、自分たちでできる方法で活動に参加できるようになれば、と考えています。そのためのセミナー開催や社内誌の発行などのプログラムを、年間を通じて策定しています(表1)。

社員の教育・啓発プログラム

NTTグループでは、さまざまな方法で、環境保全活動に関する社内教育を進めています。たとえば、セミナーを開催したり、各種の啓発プログラムを実施したりしています。また、社内

報にかならず環境保全の取り組みに対するトピックスを掲載するページを設ける(NTT東日本)、環境保全活動に関するホームページを設ける(NTT持株会社、NTT東日本、NTT西日本、NTTコミュニケーションズ、NTTファシリティーズ、NTTドコモ、NTTデータなど)、社内テレビで、環境保全活動を呼びかける、環境教育用のビデオ『森と少年』やCD-ROM『地球共生テレコミュニケーションNTT』を製作するといったことで、啓発に努めています。

『森と少年』はNTTグループ・エコロジー・プログラム21の内容をわかりやすく解説したもので、リサイクルの推進やクリーンエネルギー、水質監視システムなどが紹介されています。このビデオはグループ会社に配布されているだけでなくホームページでも公開*されています。

各グループ会社では、それぞれの環境活動を環境報告書の形にまとめたり、環境保全のための具体的な取り組みの方法などハンドブックにしたりしています(写真1)。

社員の意識調査

NTTグループ社員の環境意識や環境施策にたいする認識度を、2000年秋と2001年春の2回にわたりアンケート調査しました。

「環境モニタ」と名付けられた社員は、NTTグループ社員約1,000人。WEBによるアンケートで、一般的なグループ社員の環境意識や、各種環境保全施策への認知度を把握し、環境施策立案への基礎資料とすることを目的としています。同

*ISO14001
(アイエスオーいちまんよんせんいち) 環境マネジメントシステムの国際規格

*ホームページでも公開
アドレスは<http://www.ntt.co.jp/kankyo/video>

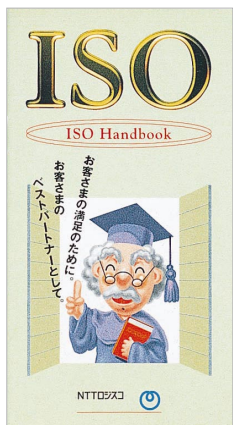
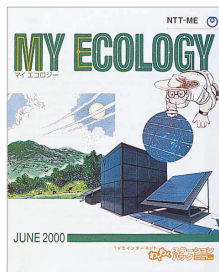
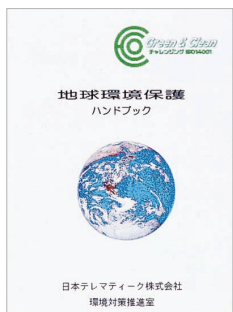


写真1 環境活動の目的や方法などを記載するグループ各社の印刷物

表1 教育・啓発プログラム

項目名	時期	対象	内容
NTT東日本グループ誌「プラザ」	隔月	全社員	自社の環境保全取り組みに関する最新のトピックスを紹介
NTT東日本TV社内向けホームページ	随時更新	全社員	「プラザ」では地球環境の危機的状況をシリーズで特集 社内向けホームページでは、環境担当者等への情報提供を実施
新入社員研修	毎年4月	新入社員	環境保全の重要性と自社の環境保全活動について教育
環境ISOセミナー	1999年6月	環境担当者	環境マネジメントシステムについて
環境会計セミナー	2000年2月	環境担当者	環境会計導入について
エネルギーフォーラム	随時	エネルギー関係者	エネルギー問題について
環境マネジメントシステム構築のために	1999年6月	全社員	ISO取得審判の報告
NTTグループ環境報告書	1999年12月	全社員	環境活動全般について
環境パンフレット	2000年3月	全社員	NTTグループ・エコロジー・プログラム21の紹介
NTTグループ環境保護活動報告書	2000年10月	全社員	環境活動全般について





時に、グループ社員からの提案も受け付けるようにしました。

その結果、社員の環境問題意識は高く、93%が関心があると回答。また、30%は非常に関心があるという結果が出ました。また、環境保護活動は、各社それぞれの活動ではなく、グループの統一的方針・活動であるべきだとの考え方が主流となっています。

社外との協力体制

環境保護活動では、幅広いネットワークを作ること大きな成果をあげることができます。NTTグループでは、各種団体への加入、支援、協力をを行い、よりよい環境保護活動をめざして活動しています（表2）。

表2 地球環境保護活動でNTTグループが連携する各種団体

団体名	活動概要
グリーン購入ネットワーク Green Purchasing Network (GPN)	グリーン購入の取り組みを促進するため1996年に設立されました。環境への負荷が少ない製品やサービスの優先的購入を進める消費者・企業・行政の全国ネットワークとして活動を行っています。
経団連自然保護基金運営協議会	内外の自然保護NGOが実施する開発途上国における自然保護プロジェクトへの支援を積極的に行っています。また国際的な自然保護活動に携わるわが国の人材の育成、また自然保護活動への理解を深めるためのセミナー開催などさまざまな活動を推進しています。
持続可能な発展のための 世界経済人会議 (WBCSD)	1995年に設立したWBCSD (World Business Council for Sustainable Development) は、世界の環境先進企業、約150社のトップレベルで構成され、産業界全体における環境への取り組みの向上や、「経済効率性」の概念に「環境効率性」を付加することを提唱するなど、持続可能な発展のための提言や活動を行っています。
地球環境行動会議 Global Environmental Action (GEA)	1991年、地球環境問題の解決と持続可能な開発に貢献することを目的に発足したNGOです。1999年には、地球環境と持続可能な開発分野における国際社会への長年にわたる貢献が高く評価され、団体として国連環境計画 (UNEP) からグローバル500賞を授与されました。
(財) 地球・人間環境フォーラム Global Environmental Forum (GEF)	環境問題に関する科学的な調査研究や政策研究に取り組み、さまざまな研究成果や内外の環境情報を発信しています。また、環境保全活動への支援や国際環境協力を幅広く展開しながら、環境問題に関わる多くの人々・機関とのネットワークを広げています。
(社) 日本環境教育フォーラム Japan Environmental Education Forum (J.E.E.F)	1987年「清里フォーラム」として発足し、1997年現名称となりました。環境教育普及のため、自然学校の普及、市民のための公開講座の開催、途上国支援などを行っています。

環境に関する受賞

事業を推進するなかで、NTTグループが取り組んでいるさまざまな環境保護活動は、多くの方に支持をいただいています。その結果として、2000年度もいくつかの賞を受けることができました（表3）。また、環境保全に関して顕著な成果をあげた施策を対象に、社長表彰制度をつくり、社内でも積極的に環境保全に取り組むことを支援しています。

21世紀は、あらゆる人が真剣に環境について考えざるをえない世紀になるでしょう。企業にとっても環境保護が最重要課題のひとつになるはずで、NTTグループでは、これからも地域に密着した環境保全活動に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

表3 2000年度社外受賞

受賞内容	主催者	対象
朝倉川植樹大会への寄付(樹木代)に対し、感謝状	特定非営利活動法人 朝倉川育水フォーラム	NTT西日本名古屋支店
ごみの減量・リサイクル及び環境保全意識の向上に寄与したとして、平成12年度高知クリーン推進委員会会長表彰特別賞	高知クリーン推進会	NTT西日本高知支店
札幌市緑化推進条例に基づき、緑化整備されたとして、緑化協議優良表彰施設として選出	札幌市	NTTドコモ北海道第2ビル
「緑の募金」の寄付による森林・みどりづくりの推進に貢献したとして感謝状	農林水産大臣	NTTドコモ東海
「大阪緑のトラスト協会」へ寄付による貢献に対し、感謝状	大阪府	NTTドコモ関西
「緑の募金」への寄贈で国内外の森林・みどりづくりの推進に 対する多大な貢献に対し、感謝状	社団法人国土緑化推進機構	NTTドコモ九州 大分支店長
多年にわたる国土緑化運動に尽力した功績で、感謝状	社団法人国土緑化推進機構	NTTドコモ九州
環境に配慮した企業活動が認められ、ながのエコ・サークル 「シルバー・ランク」	長野市	NTTロジスコ信越支店

情報の提供・コミュニケーション

<http://www.ntt.co.jp/kankyo/2001report/3/331.html>

NTTグループでは、環境保全に関する取り組みを進めるだけでなく、環境に関係する情報を消費者の方にお伝えしたり、環境に関する情報を提供するための場を設けたりしています。こうした活動も、間接的ながら広く環境について考える機会を提供することになると考えています。

環境広告

NTTグループは、自ら環境保全活動を行うだけでなく、その概要を消費者の方々に知っていただくための活動もしています。児童、生徒から、ビジネスマン、主婦、シルバーエイジまで幅広く一般の方々に知っていただくため、新聞・雑誌広告、さらにインターネットの広告を利用して、コミュニケーション活動を展開しました（写真1）。

そのために、エコロジーとコミュニケーションを合わせた「エココミュニケーション」という言葉をキーワードに、NTTグループが現在取り組んでいる環境問題と、それに対する具体的な活動を知っていただくことからスタートしました。そして、地球温暖化の防止、産業廃棄物の削減、省エネルギーへの取り組みをはじめ、研究開発、地域貢献など、NTTグループが全体で取り組ん

でいるさまざまな事例を紹介しました。

また、外に向けて情報を発信するだけでなく、NTTグループ社員に対しても毎年環境モニターアンケートを実施しています。このアンケートの結果から、グループ社員の環境問題に対する関心、NTTグループの環境保全活動の基本理念・行動目標・さまざまな活動の認知度を把握し、グループ内部に向けてのPR活動を充実させています。

環境goo

環境goo*は、NTT-Xが運営する、環境情報に特化したポータルサイト*です。このサイトは、1999年8月4日にスタートしました。21世紀の環境コミュニケーション・ビジネスを支えるための情報発信・検索サイトです。

環境gooの特徴は次のようなものです。

- ・「環境gooサーチ」で環境情報をさまざまな角度から探すことができます。
- ・「環境gooニュース」で、環境を巡る最新の情報をお届けします。
- ・「環境gooビジネス」で、環境問題の対応に取り組む企業をバックアップします。
- ・「環境gooコミュニケーション広場」を設け、企業やNGO*、一般消費者の情報交換の場を提供します。

環境goo「NGOと企業のパートナーシップを考えるWEBシンポジウム」を開催

2000年6月21日より、日本のNGO*の現状と課題をインターネットを通じて調査し、その結果を基に今後の企業とNGOのあり方の可能性を探る「NGOと企業のパートナーシップを考えるWEBシンポジウム」を開催しました。

これは、今後の環境保全活動をさらに活発にしていくためには、日本のNGOと企業とのパートナーシップのあり方が問われるのではないかと、という考えに基づいて開催されたものです。

このシンポジウムは、

- ・「NGO活動に関するアンケート」の実施
- ・「基調講演：NGOと企業はともに行動せよ」の実施
- ・「座談会：消費者と企業、NGOの情報交流につ

* 環境goo
<http://eco.goo.ne.jp>

*ポータルサイト
インターネットでブラウザを起動したとき最初に接続されるように設定されているサイト。ポータル(Portal)とは玄関とか入り口という意味

*NGO
Non-Governmental Organization。人権、人道、環境、軍縮などの分野で活動する民間の国際協力団体のこと

写真1 2月26日発行の『Newton』に掲載された広告





いて、「Web討論会」の実施の3部構成で展開されました。

シンポジウムでは企業側、NGO側の双方からさまざまな意見が出され、今後のパートナーシップのための問題点が浮き彫りにされました。また、「インターネットを企業とNGOの出会いの場、コミュニケーションの場として活用することが重要」という点で意見が一致しました。

環境gooでは、今後も消費者と企業・NGOとの情報交流に貢献するため、各立場の活動に関する情報をいち早く正確に伝えていきます。そして、消費者、企業、NGO3者のコミュニケーションから「持続可能な社会づくり」の可能性を追求します。

環境goo大賞

2000年度には、消費者、企業・自治体、NGOの環境保全活動に関する情報発信をサポートするために、第1回「環境goo大賞」を主催しました。これは日本各地で活躍する団体・個人から「環境保全に関する新しい企画」を募集し、画期的な提案には環境gooの広告収入より資金を寄付する、というものです。

記念すべき第1回の「環境goo大賞」には、全国より147件の応募がありました。そのうち環境goo会員による投票で32件が最終審査の対象となり、各審査員が、情報の発信内容、創意工夫、独創性、期待される効果などを評価し、各賞を選定しました(図1)。

環境gooではこれからもこのような活動を通し

図1 環境goo大賞を発表したページ



て、皆さまの情報発信を、積極的に支援していきます。

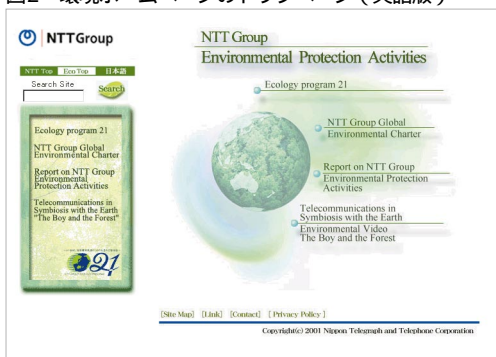
環境ホームページ*

1995年に「地球共生テレコミュニケーションNTT」として公開したのが始まりです。「NTTグループ環境保護活動報告書1999」の発行に伴い、「NTTグループ地球環境憲章」と合わせて、2000年2月に環境ホームページとして内容を更新しました。環境ホームページには英語版もあり、海外にも情報発信をしています(図2)。「NTTグループ環境保護活動報告書」は、このホームページから見ることもできます。

環境報告書の発行

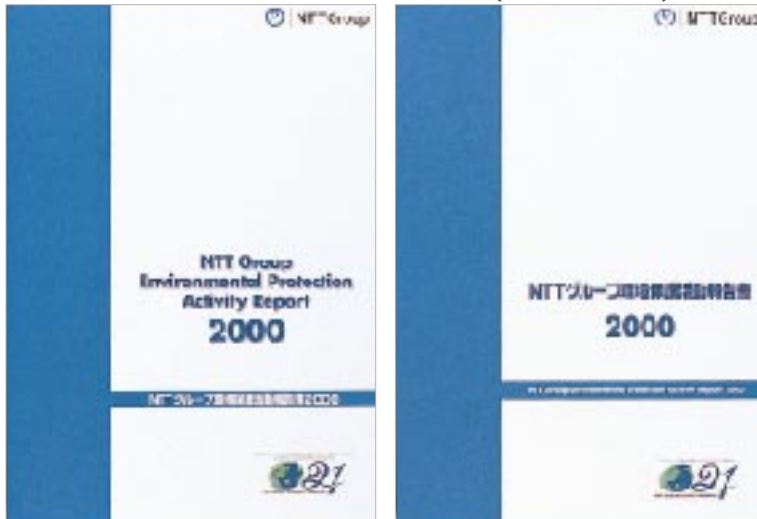
1999年に引き続き、「NTTグループ環境保護活動報告書2000」を2000年11月に発行しました。この報告書は、主に1999年度の環境保護活動の内容を記載しています(写真2)。

図2 環境ホームページのトップページ(英語版)



* 環境ホームページ
http://www.ntt.co.jp/kankyo/index.html

写真2 『NTTグループ環境保護活動報告書2000』(英語版と日本語)



社会との関係

<http://www.ntt.co.jp/kankyo/2001report/3/341.html>

企業は、利益を追求する集団であると同時に、社会の構成要素のひとつでもあります。そのため、従業員、市民の方々など、さまざまな利害の関係する人々と協力しながら事業を進めています。ここでは、そんな方々との関係を紹介します。

従業員との関係

福利厚生

NTTグループでは、グループ外の皆さまとの良好な関係を築くのは当然のことながら、グループ内で働く従業員との関係も大切にしたいと考えています。そのため、各種の施設、休職制度をはじめとする福利厚生を定めています(表1)。

お客さまからのご意見

環境広告に対するアンケート

NTT Xは、gooリサーチ*会員を対象に、NTTグループの環境広告についてのアンケートをインターネット上で実施しました。回答者数は1,171人で、環境広告に対するさまざまな意見が寄せられました。そのアンケートの集計を元に、お客さまの環境広告に対する意見、また個々のコメントを紹介させていただきたいと思います。

企業の環境問題への取り組みを広告で出すことについては、約4分の3の方が賛成でした。傾向として、環境問題への関心の高い人ほど、賛成、という意見の多いことがわかります(図1)。

個々のコメントを読んでも、「企業が環境問題に取り組むのは当然」という点では、意見が一致しています。それを広告として出すことの是非については、「大企業が広告を出せば、一般の人の環境に対する意識を高めることができるので賛成」という意見と、「広告を出すお金があるのなら、その分環境対策に回すべきなので反対」という意見に大別されました。

*gooリサーチ
インターネットでだれでも参加できるアンケート調査。
<http://research.goo.ne.jp/>

*iモード
いろいろなサイトにアクセスできる携帯電話。メールの送受信は1円からできる

表1 福利厚生

保険	健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労災保険
財産形成	社員持株制度、財産形成貯蓄(一般、住宅、年金)、土地先行取得融資など
休暇	年次有給休暇(20日)、各種特別休暇、年始年末休暇、ライフプラン休暇など
休職制度	育児休職、介護休職など
施設	社宅、独身寮、病院・健康管理センタ、各種レクリエーション施設、保養所(全国各地)など

自由回答のコメントから

- ・環境問題に取り組んでいることを広告するのは賛成です。消費者にとって環境問題が身近に感じられるようになるからです。(女性・25歳)
- ・消費者が企業の社会貢献度を知るためにも、広告を出すことは必要だと思う。それによって、消費者が会社を取捨選択し、会社も社会的に淘汰されていることになると思う。(女性・29歳)
- ・その広告費でさえ環境問題のために使えばいいのに、と思います。企業のイメージアップのためのツール……それが企業における環境問題、というのが私の考えです。(女性・29歳)

環境広告のあり方についてもご意見をたくさんちょうだいしました。今後の広告のあり方について、参考にさせていただきたいと思います。

自由回答のコメントから

- ・iモード*で環境問題に関するゲームをつくり、有名タレントをキャラクターにしてリサイクルのコマーシャルを流したら強い印象が残るのではないかなと思う。(女性・24歳)
- ・古電話帳の再生が、新しく作る場合とどうコストが違うのか、なぜそこまでするのかを明記すればさまざまな意見が出てくる。(男性・42歳)
- ・企業として取り組むのは当然だから、あえて広告するメリットはどこにあるのか考えてしまう。個人宛の明細書にでもホームページのアドレスを載せておけば、興味のある者は見るだろうから、過剰な広告は無用。(女性・43歳)

図1 環境への関心度と環境広告の是非の関係

